

ジュニア賞

## ほら、歩こうよ。好きな街

中川 結彩子 (高校3年生：東京都)

私の祖父は、数年前に重い病気を患ったことによる筋力低下で、回復後も長距離の歩行が困難になってしまった。年齢的には、筋力をどうにか戻せたら長距離も歩けるはずなのだが、筋トレをさせるなんて不可能。そこで、少しでも足腰を鍛えられたら…と私は一緒に散歩に出かけることにした。ゆっくり歩くことに関しては苦痛そうではなかったが、ただひたすら歩くのはキツそうな様子だった。私がゲームを思いついたのは、そんな時だった。私が提案したいのは、ご年配の方が使う町歩きアプリだ。最近、ポケモンGOやIngressといった位置情報アプリが世界的に流行している。これにより、沢山の人が街中に出てくるようになったが、あくまでこれは若い人向けである。実際、ポケモンGOを祖父に勧めたものの、老人にはわかりにくいよと言われた。今の時代に求められているのは、ご年配の方々に易しく、わかりやすく、そして健康維持を目指せるアプリなのではないかと思うのだ。具体的には、住む地域の地図に、ご年配の方々が利用しやすいお店の情報、訪れた際に入手できる特別なクーポンについての掲載、同時に近所の同年代の方と簡単にコミュニケーションが取れるチャットのような仕組みも入れるというものだ。ただ気をつけたいのは、地図や文字を大きくすること、情報はわかりやすくすること、そして個人情報を守ることであるが、これらの注意さえすれば、ご年配の方々が外に出かけるをもっと楽しくさせられる上に、同時に孤独化を防ぎ、より充実した人生を送ることへのサポートに繋がると思うのだ。もしこのゲームが出来たら、私は祖父にすぐに勧めたい。そして、祖父に元気に長生きしてもらいたいと思う。